

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300408		
法人名	株式会社 ノエル		
事業所名	グループホーム ノエル本庄		
所在地	埼玉県本庄市小島1丁目1番34号		
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人が人らしく」を理念にし、職員一人一人が理念について考えながら個別ケアを行っています。コロナ禍で外出できず「認知症が進行しないか?」「ストレスは溜まらないか?」「そのためには何かできることはないか?」等話し合い、一か月毎の行事や日々の生活の中で「今までにやった事の無いようなレクリエーション(ボーリング大会やミニ納涼祭等)」や「タブレットを使用し、LINEのテレビ通話を利用したオンライン面会」を始めました。ご家族様に会えず淋しい気持ちを少しでも利用者様が笑顔になれるように支援しています。ご家族様も利用者様に会えず不安や心配事があるかと思いますが、ノエルletterを引き続き活用し送付しています。また利用者様に新型コロナウィルスが感染しないよう利用者様、職員の日々の健康観察を行い、マスク着用、手に触れる場所の消毒、換気などにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・現在は感染症予防対策に努められ、入居者、職員だけでなく職員の家族にも気を配り、安全で安心した生活が送れるよう取り組まれている。外に出られないことから事業所内のできることに力を入れ、オンライン面会やガラス越しで顔を合わせるなどの支援も行われている。さらに、様々なイベント企画を職員が皆で考え、夏祭りにはゴム鉄砲で射的など昔懐かしい遊びを工夫するなど、入居者や家族に喜ばれている。
 ・運営推進会議については、現在は文書による会議形式をとり、写真などを用いて事業所の取り組みを紹介されている。参加者、特に家族に事業所の取り組みを理解いただけるよう報告や議事録が丁寧に作成されている。
 ・目標達成計画については、令和元年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策で地域との協力体制づくりに取り組まれ、車いすでの避難方法を学ばれたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人が人らしく」を基本理念とし管理者と職員は利用者様に対し理解しケアを行っています。	「自分がされて嫌なことはしない」を基本に考え、「人が人らしく」の理念が実践されている。やれることややりたいことをやっていただき、認知症の症状が出て「何を訴えたいのか、何故そうなのか」を汲み取るよう心がけられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍ですが地域の回覧板が回ってきた際に、職員と一緒に隣の家のポストまで回しに行ったりします。住民との交流はしていませんが、地域の一人と自覚していただけるよう努めています。	地域との距離が近く、中学校の生徒の職場体験の受け入れなどのつきあいが行われていたが、現在は、近隣の散歩などを中心に遊んでいる子供たちや猫と触れ合ったり、野菜をいただくなどの交流が続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣散歩の際、近所の方と距離を取りながら挨拶したり世間話をし認知症の方の理解に繋がっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウィルス感染拡大防止の為に中止しています。開催予定月には近隣住民、家族様、社会福祉協議会に行事報告などを送付しています。意見は出ませんが「コロナ大変だけど頑張ってる」と近所の方からの声をいただきました。	運営推進会議は、文書による会議形式をとり、写真などを用いて事業所の取り組み紹介や参加者からの意見をいただけるような仕組みも作られ、議事録もわかりやすい丁寧な文章での報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き状況の報告、運営推進会議の議事録提出をし、また加算について不明点を問い合わせ相談し実情を把握してもらっています。	日常的に市担当者とは介護保険の運用について相談され、生活保護受給者については福祉課の担当との連携が図られている。また、コロナ感染対策の給付金や助成金、備品の配布などの情報もスムーズに得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では身体拘束はないが、「ダメ」「待って」等は身体拘束にならないのか？と職員同士で議論し声掛けの方法等も見直しました。また新人職員に対しても1から説明し身体拘束とは何か？を理解してから仕事に取りかかっています。	身体拘束適正化委員会を定期的開催し、ケース会議に落とし込み職員間での共有が図られている。「ちょっと待って」の声掛けには待つことが理解できるような説明を加えるなど、職員都合ではない入居者の立場に立った対応がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者にできやすい皮下出血を見つけたら「どうしてできてしまったのか」を職員一人一人が考え防止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護に関する資料を設置し職員がいつでも閲覧できるよう、活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行ない、不明点や施設で行っている事を納得いくまで話をし安心して入居できるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い時に施設の玄関先までご家族様が来るのでその際に要望などを聞き運営に反映しています。	入居者とは普段の会話から要望を聴き、「寿司が食べたい」などにはお正月に準備するなどの対応がなされている。家族とは「ヘルター」により写真やコメントを発出し、LINEを用いたオンライン面会などで意見や要望を聴き取られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に一回ケース会議を行い会議の前には事前に職員からの利用者様に関する事や業務に関する意見を募り話し合いの場を設けています。	業務の効率化や入居者が喜ばれるイベント企画などに職員からの意見や提案が取り入れられている。管理者は職員のプライベートな話にも耳を傾け、職員のストレスが溜まらないよう心掛けている。職員からも「相談ができ、教えてもらうことができる」などの声が聴かれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人の実績を把握し職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得の費用を負担しスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為訪問は控えていますが、市内の同業者と連絡を取り合い良好な関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人が利用者様とゆっくり話をし可能な限り要望に応えられるよう、安心して生活できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事や要望を聞き、ご家族様にも安心していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて他サービス利用も合わせて希望される場合は出来る限り対応させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に生活する気持ちを持ち、一緒に洗濯物をたたんだり、積極的にコミュニケーションを測り良好な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染拡大防止の為面会を中止せざるを得なくなったため、オンライン面会を実施し利用者様とご家族様の絆を大切にできるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会時には親戚の方とも行き、関係が途切れないよう支援に努めています。	オンライン面会を取り入れ、馴染みの方との縁が途切れないように取り組まれ、また、新しい入居者を会話に巻き込み新たな馴染みの関係が築けるよう支援が行われている。夏祭りでは昔ながらの射的などを楽しんでいただき、昔を懐かしく思い出していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクを行なったり一緒におやつを作ったりし利用者同士が関われるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者ご家族様に経過や様子を聞き関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや希望を積極的に聞き把握に努めています。また職員は相手の気持ちになり自分だったら？と考えながら支援しています。	日頃の会話から好みの寿司ネタを聴きだし、お正月に提供されたり、出身地の食べ物や新聞のチラシなどから思いの把握に努められている。また、言葉で伝えられない入居者には、顔の表情や態度から胸の内を汲み取られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に介護支援専門員やご家族から生活歴を聞き取り情報提供していただき、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の現状を把握する為、日々の記録やケース会議を開催し情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人一人の問題点を職員や医師、看護師の関係者から話を聞き取り意見交換し介護計画に反映させて作成します。	医師や薬剤師と連携し、ADLの変化や家族の要望などポイントを絞った目標と支援内容の介護計画が作成されている。プラン作成後はケース会議で職員にも説明され、常に現場への周知を図るよう努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人一人が利用者様とコミュニケーションを測ったり観察し、ケース記録や夜間の行動記録、日誌などに記録し情報を共有し実践、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに応じて柔軟な支援、サービスを提供するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧板などを活用し地域資源の情報収集し参加できるよう支援していきたいと思えます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の意見を聞き適切な医療機関を選択していただいています。	協力医療機関は24時間対応で、時間外でも指示を仰いだり、必要時にはすぐ診てもらえるなど安心した医療環境が整えられている。かかりつけ医や専門医への受診には職員が付き添い、入居者の状況を的確に伝達されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡が取れる体制をとり、一週間に一回、利用者様の体調、精神面の状況を報告、相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時は速やかに入院、対処できるように協力医療機関との関係性を築いています。入院後も病院関係者と密に連絡をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に本人様、家族様に緊急時の事前調査(延命処置をするかどうか)、終末期の家族の意向を聞き取り、地域の関係者と共に支援に取り組んでいます。	緊急時の確認書や終末期の医療について事前調査書などを交わされ、希望に応じて看取りのできる体制も整備されている。看取り実施の事例もあり、家族にはリスクを説明し、要望に沿った最期が迎えられるよう取り組まれたことで家族から評価も得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時に速やかに対応できるよう対応方法を掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為訓練も消防隊に立ち会って頂き、手短でしたが、火事、地震発生時の通報、避難について再確認を全員で行いました。	消防立ち合いのもと、通報、避難経路の確認、消火訓練等が実施されている。ハザードマップや地域の避難場所の確認も行われ、地域の方も参加され車いすを押して介助する方法などを学んでいたため、協力体制が整えられている。	質の高い災害対策が講じられていることから、災害発生時、すべての職員が同じように動画ができるようキャリアの短い職員を中心に訓練を繰り返し、課題を見つけて取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話を傾聴し受け止め、思いやりのある言葉で言葉かけをしています。	入居者とは適度な距離感をもって対応され、被害的な言動には否定せずに受容して安心いただくよう努められている。プライバシーにも気を配り、入室時の声掛けやノック、居室で荷物に触れたりするときも確認しながら進めるよう対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るようなわかりやすい言葉かけをしています。その中でも本人の思いや希望を聞き取り支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活ペースに合わせ、ゆったりと過ごして頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れていたら声をかけすぐに着替えたりと利用者様が恥じる事のないよう身だしなみには気を使っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけなどは難しく一緒に出来ていませんが、職員が作ったおかずの味見をして頂いたり、利用者様の好みを聞き献立に入れ込み、食事が楽しめるように支援しています。	リクエストに応じたり、アレルギーに対応し、管理者が献立を考え、買い出し調理を職員が行い、手作りの食事が提供されている。デリバリーのピザを提供したり、おせち料理や握り寿司、七草がゆなど季節に配慮した料理も企画され、食べることを楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録し、少ない場合には職員同士で情報共有し利用者様が好きな食べ物や飲み物を提供するようにしています。また体調の悪い時は医師に相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科を利用し口腔状態や清潔保持、嚥下体操や義歯の調整等認知症予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人にあったケアをしています。羞恥心に配慮した声掛けを行い、自身で出来ることは行ってもらう残存機能を生かせるよう支援しています。	入居者それぞれに合った排泄支援方法を皆で考え共有しながら、できないことを手伝うなど自立に向けた支援が行われている。今までできたことができなくなる状態変化にも注意を払い、職員の気づきを大切に適切な支援方法を検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表や水分表に記録し、便秘の方に関して主治医や看護師と相談し個々で排便コントロールをして調整しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、声をかけながら入浴しています。また寒い時期は入浴しながら利用される方もいますので足浴をしたりさまざまな入浴剤を使用し楽しんでもらっています。	健康面に配慮しながら、長湯に気を付けたり、湯船に浸かれない場合はシャワー浴の対応が行われている。自立の入居者にははできることはやっていただき、手の届かないところを介助するなどの自立支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度の管理をし安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の服用している薬を把握できるよう、また往診時に薬の変更があった場合や副作用等の変化に関しては薬剤師から指導があり、それを会議や申し送りにて周知しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出は控えていますが、室内で出来ることを考え足浴の頻度を増やしたり、レクリエーションも新しい事を考え参加していただき気分転換図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので感染拡大防止の為外出は控えております。	職員から「〇〇に行きたいけどどうですか」とお誘いし、「1か月に1度は外出イベント」の取り組みがこれまで行われていた。現在はベランダやベンチに出たおやつやお茶を楽しまれたり、花を觀賞されるなどの支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の症状に応じて自分のお金を使用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望がある場合にはできる限りご家族に電話をしています。コロナウイルス感染拡大防止の為面会は中止させていただいている為、予約制ですがオンライン面会を実施し顔を見れるよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアの装飾を職員が考えその季節に合った色合いにしたり、室温や湿度の管理をし認知症の方でも居心地よく過ごせるように配慮しています。また、	玄関で夕かきを飼育したり、観葉植物を各所に配置するなど、入居者が目で楽しめるようひと手間加えた環境づくりに取り組まれている。ご家族からも清潔感があり、アットホームな雰囲気との評価が得られ、入居者はそれぞれの居場所で穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室なので、利用者様の表情を汲み取り声をかけ利用者様のペースに合わせて過ごせるよう支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人や家族と相談しながら、以前から使っていた家具などを持ち込んでいただき居心地よく日々を過ごせるよう工夫しております。	思い思いに筆筒や机などを持ち込まれ、読書をしたり漢字の書き取りをしたりするなど入居者が自由に過ごせる居室づくりへの支援が行われている。理念の「人が人らしく」の考えが活かされ、それぞれの個性が尊重されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは残存機能を生かしながら自身で行っていただいています。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホーム ノエル本庄

目標達成計画

作成日: 令和 3年 3月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策	・継続した、地域住民との協力体制の強化。 ・職員の防災教育の徹底。	消防訓練を行う際、地域住民へ通知、参加協力を依頼。また、職員については、新しい職員を優先的に訓練に参加させ、災害対策強化に努める。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。